

令和元年度 御殿場市議会広報委員会 行政視察報告書

1 視察日程

令和元年8月30日（金）

2 視察先及び視察事項

(1) 静岡県菊川市議会

『議会広報誌「議会のひろば」リニューアル』について

(2) 静岡県磐田市議会

『議会広報誌「いわた羅針盤」リニューアル』について

3 参加者

委員長 勝間田 幹也

副委員長 小林 恵美子

委員 芹沢 修治

大窪 民主

高橋 利典

事務局 渡邊 一二司

土屋 光行 長田 文明

高木 理文 辻川 公子

（議会事務局議事課主任）

4 視察内容

■静岡県菊川市議会

(1) 『議会広報誌「議会のひろば」リニューアル』について

視察対応者

菊川市議会

松本昌幸 議長

倉部みつよ 議員

菊川市議会議会事務局

大石輝幸 総務係長

① 目的

議会活動をしていく上で、広報・広聴のあり方を研究するにあたり、先進地の議会広報誌のリニューアル内容について調査する。

② 内容

菊川市議会は議員定数17名（平成20年6月定例会で定数条例改正22人から5名削減）、任期：平成29年1月30日～令和3年1月29日までである。委員会は常任委員会として総務建設委員会9名、教育福祉委員会8名、特別委員会として一般会計予算決算特別委員会17名、その他、議会運営委員会7名、議会だより編集委員会5名、議会報告企画委員会7名、政策討論会幹事会5名となっている。

菊川市は面積94.19平方キロメートル、人口（平成27年国勢調査人口）は46,763人。気候は総じて温暖で、深蒸し茶の里として知られる茶産地である。茶業のほか、茶鋏や茶摘機、自動車関連部品、精密工作機械などを生産する企業が立地する工業都市でもある。

菊川市議会では議会の活性化を図るために平成28年5月2日～25日の間、菊川市内在住の20歳以上、住民基本台帳から無作為に抽出し2,000名に対し郵送配布・郵送回収の方法で市議会の活動に関する市民アンケートを実施した。尚、アンケート経費は政務活動費より一人20,000円負担した。

結果は有効回収数1,042件有効回収率52.1%であり、アンケート結果の検証としては

【菊川市議会】

議会活動内容の周知・情報発信不足菊川市議会。親しみやすく、信頼される議会運営に向け、情報発信のあり方について市民の皆様から広く意見を伺い、取り入れながら開かれた議会を目指していく。

【市議会議員】

市民の方との交流や意見を伺う機会が少ない市議会議員。個々の議員が率先して市民活動の場に足を運び、市民の皆様と対話し意見交換する。報告会の開催や広報誌を発行し情報発信に努める

【議会改革】

市民の皆様にとって魅力ある議会とは何か、頂いた意見（提案や課題）に対しどのように進めているかの過程とどうなったのかの結果について、随時お知らせし市の皆様と議員が一体となって、最善の方向に進むよう努力する。

これらを踏まえ開かれた議会を目指して「議会だより」リニューアルに取り組んだ

【議会だよりとは】

市民を代表する議会の活動を市民に伝え、さらには市民参加市民自治につながる最も身近なツールである。

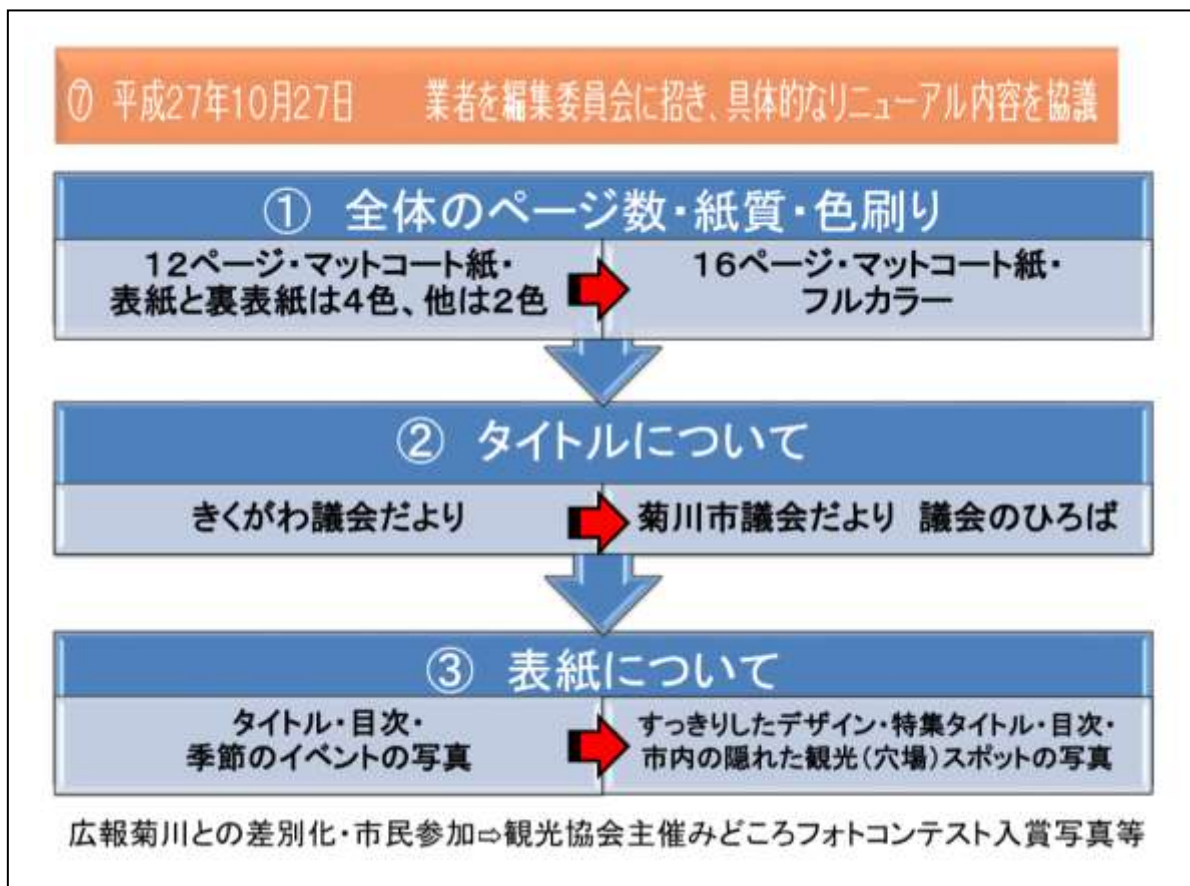
【リニューアルの目的】

より手に取ってもらい読んでもらえる議会だよりとし、議会の活動、議員の活動を市民にわかりやすく伝えることで、市民との距離を縮め、開かれた議会を目指す。議会活性化への取り組み、誰にでもわかりやすく親しみやすい広報の両立を図る。

以下、検討の経緯を示す。（菊川市議会説明用資料から引用）



平成27年7月1日から21日市役所ロビーにて議会だよりのアンケートを実施その内容に基づき以下リニューアル内容を決定した。(菊川市議会説明用資料から引用)



その他新規に特集ページやみんなの声などを設け、市民参加市民自治につながる広報誌となっている。また、参考までにリニューアルに伴う費用の増は116,036円(税込み)単価1,73円(税込み)の増である。(以下菊川市議会説明用資料から引用)

	リニューアル前 (平成27年度)	リニューアル後 (平成28年度)
刷 色	表紙及び裏表紙のみカラー 他ページは2色	全ページカラー(4色)
紙 質	FSC認証紙ニューVマット 44.5K	FSC認証紙ニューVマット 44.5K
契約額	1,002,844円(税込み) 単価17.17円(税込み)	1,118,880円(税込み) 単価18.9円(税込み)
ページ数	12ページ	16ページ

③ 考 察

菊川市議会『議会広報誌「議会のひろば」リニューアル』においては、市議会の活動に関する市民アンケート結果から議会活動内容の周知・情報発信不足があり、それを補うべく、信頼される議会運営に向け情報発信のあり方について議会だよりの重要性を深く探求している。

その際にも、市役所ロビーにて議会だよりのアンケートを実施その内容に基づきリニューアル内容を決定している。その惜しまぬ労力に感服した。

作成するに当たっては市民の声を聴くことが大事であり、議会の活動を市民に伝え、市民参加・市民自治につなげる最も身近なツールであると再確認できた。

より良い広報紙作成にあたっては、当市も各市町の広報紙を並べる形でのアンケート調査を実施してみるのも一考である。また、市民参加型では「特集記事」や「みんなの声」なども参加意識がまず取り組みである。何よりも、手に取ってもらえる工夫、「表紙のタイトル・写真・雰囲気」、詰め込みすぎない「読んで欲しい量と読める量の差を縮める」、毎号ターゲットを変える「新規読者の獲得ママの声」など今後の議会だよりの参考にしていきたい。



菊川市議会視察風景

■ 静岡県磐田市議会

(2) 『議会広報誌「いわた羅針盤」リニューアル』について

視察対応者

磐田市議会

寺 田 幹 根 議長

高 梨 俊 弘 広報誇張委員長

磐田市議会議会事務局

飯 田 剛 典 事務局長

寺 田 聡 志 主任

鈴 木 隆 仁 主任

① 目 的

議会活動をしていく上で、広報・広聴のあり方を研究するにあたり、先進地の議会広報誌のリニューアル内容について調査する。

② 内 容

磐田市議会議員定数26名（現在25名、1名減）任期：平成29年4月24日から令和3年4月23日までである。委員会は議会運営委員長8名、常任委員会5委員会（これには議長は所属しない）として総務建設委員会8名、民生教育委員会8名、建設産業委員会8名、広報広聴委員会7名、予算決算委員会委員は議長を除く全議員となっている。

磐田市は163.45平方キロメートル、人口（磐田市HP令和元年8月末現在）は169,873人。近年では、地場産業である繊維産業に加え、金属、自動車、楽器などの工業都市である。また、農業産出額も県内屈指で農・水産物として温室メロンや茶、白ねぎ、海老芋、中国野菜、シラスなどが有名である。都市部と農村部が均衡に発展を遂げている地域である。

磐田市議会は議会基本条例に規定する市民に分かり易い、開かれた議会の実現をするために情報の公開と共有の推進、市民の声を議会へ反映させるための体制として広報広聴委員会が位置付けられている。

『議会広報誌「いわた羅針盤」リニューアル』においては、平成21年度に、カラー化の協議が行われたが、継続協議案件となった。その後、平成25年度、26年度にも協議したが、現行のままとした。その後平成27年度に広報広聴委員会で協議した結果、全会一致でリニューアルを行うこととし、フルカラー化、掲載内容も充実を図ることとし、新しい名称（愛称）として、全国より146点の応募があり、「いわた羅針盤（らしんばん）」に決定した。これらの経過からも長きにわたり、広報誌のリニューアルの検討がされてきている。

組織の変遷並びに内容については以下の通りである。

【広報広聴組織】

組織の変遷について（磐田市議会説明資料から引用）

年 度	議会だより	議会報告会	その他
平成17年度～	議会報 編集委員会	—	会派代表者会議または議会運営委員会
平成24年度～	議会報 編集委員会	議会報告会運営会議	会派代表者会議または議会運営委員会
平成27年度	広報広聴委員会（協議及び調整の場）		
平成28年度～	広報広聴委員会（常任委員会）		

【広報広聴委員会について】

ア 設置

平成28年5月18日(平成27年11月定例会で委員会条例改正し常任委員会に移行)

イ 目的

議会基本条例に規定する市民に分かりやすい、開かれた議会を実現するため、積極的な情報の公開と共有を推進するとともに、市民の多様な声を的確に議会に反映させるよう、議会の広報広聴機能のさらなる強化を専門的に協議・調査する体制を構築する。

ウ 所掌事務

- ・議会だよりの編集及び発行
- ・議会報告会の実施及び運営
- ・その他議会広報広聴に関すること(例:ホームページ見直し、フェイスブック、いわたホッとライン、ご意見ポスト、キッズページなど)

【議会だよりの編集・発行について】

ア 発行部数 約58,500部発行/号

- ・自治会による全戸配布⇒約57,800世帯
- ・各交流センター、体育館、図書館等公共施設⇒約400部
- ・セブンイレブン(業務提携)約300部

イ 発行回数 年5回

- ・2月定例会号:5月1日発行
- ・5月臨時会号:7月1日発行
- ・6月定例会号:9月1日発行
- ・9月定例会号:12月1日発行
- ・11月定例会号:2月1日発行

平成25年度より、市広報紙との重複を避けるため、発行日を変更。
仕様・規格はA4判、冊子型、フルカラー16ページ~20ページ
(5月臨時会号は8ページ)

平成28年7月1日号までは、2色刷り(黒と青)

ウ 経費

- ・平成31年度予算 印刷製本費 4,311,000円
- ・ページ単価0.68円/ページ(フルカラー前 0.53円/ページ)
- ・実質的な費用
0.68円/ページ×80ページ×58,500部×1.1(消費税)

= 3, 500, 640円

その他、表紙写真を市内の高校写真部から募集していた。一般質問の原稿も事務局でまとめ、議会ホームページも編集、さらに声の議会だよりも作成等行なっている。また、広報誌のみに留まらず、フェイスブックなど議会ウェブサイトによる情報発信も行なっている。

以下、磐田市議会フェイスブックによる当市の視察紹介をしてくださっていた。



③ 考 察

磐田市議会『議会広報誌「いわた羅針盤」リニューアル』においては、

- ・文字の大きさや段組等を検討し、読みやすいレイアウトとする。
- ・ページごとに掲載内容を分類し、わかりやすいレイアウトとする。
- ・文字以外の空間スペースを活用する。
- ・楽しくページを進められるよう工夫をする。
- ・デザイン性のあるものとする。

などを考慮した広報誌となっていた。特に表紙写真を市内の高校写真部から募集（撮影者も紹介）しており若者に関心を持ってもらう一助となっていた。



また、オールカラー化はさほど金額に差が無く大変見やすい。紙面は広報

誌のリニューアルに対し目的を定め、開かれた議会を実現するため、積極的な情報の公開と共有を推進していた。その結果市民の多様な声を的確に議会に反映させるよう、議会の広報広聴機能のさらなる強化を図っている。

「価値のあるものに考えて作っている。」という委員長の言葉には前向きな意気込みが感じられた。今後の議会だよりの参考にしていきたい。